

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立加悦谷高等学校 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	京都府立加悦谷高等学校、 第2学年1組・2組アスリートスポーツコース（男子9名・女子4名） 陸上競技部員1・2年生（男子7名・女子5名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（スポーツ探求） ② 行事名（ ） ③ その他（陸上競技部活動） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	支援学校生徒とのスポーツ交流を通じて、障がい者理解を深め、他者への共感や思いやりの心を育てる。また、声掛けの工夫から、陸上競技観を見つめ直し、競技力向上へ繋げる。
5 取組内容	1 事前学習 平成29年11月22日（水）11:40～12:30 於本校E教室 交流を行うにあたり、学校の様子や交流の留意点などの講義 2 スポーツ交流 (1)第1回 平成29年12月8日（金）13:30～14:20 於:与謝の海支援学校 バスケットボール、卓球、卓球バレーを3会場に分かれて実施した。 (2)第2回 平成30年1月12日（金）13:30～14:20 於:与謝の海支援学校 前回同様に、バスケットボール、卓球、卓球バレーを3会場に分かれて実施した。 3 陸上競技部 合同練習 (1)11月17日（金）15:50～17:00 於本校グラウンド 基本となる動き・走力や跳躍力などがアップする練習を、陸上部員が主体となって支援学校生徒に注意点を述べながら実施した。 (2)12月12日（火） 積雪で公共交通機関が乱れる恐れがあるため、中止とした。
	 <p>バスケットボール</p>  <p>卓球</p>  <p>卓球バレー</p>

<p>6 主な成果</p>	<p>1 スポーツ交流</p> <p>(1) アンケート結果</p> <p>① 支援学校生徒との違いを認め合えたか？</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">アスリートコース</th> <th style="text-align: center;">陸上競技部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア よく認め合えた</td> <td style="text-align: center;">12名</td> <td style="text-align: center;">10名</td> </tr> <tr> <td>イ まあまあ認め合えた</td> <td style="text-align: center;">1名</td> <td style="text-align: center;">2名</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 支援学校生徒との友情が育めたか？</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td>ア よく育めた</td> <td style="text-align: center;">12名</td> <td style="text-align: center;">8名</td> </tr> <tr> <td>イ まあまあ育めた</td> <td style="text-align: center;">1名</td> <td style="text-align: center;">4名</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 主体的な活動だったか？</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td>ア 主体的だった</td> <td style="text-align: center;">8名</td> <td style="text-align: center;">6名</td> </tr> <tr> <td>イ まあまあ主体的だった</td> <td style="text-align: center;">4名</td> <td style="text-align: center;">4名</td> </tr> <tr> <td>ウ あまり主体的ではなかった</td> <td style="text-align: center;">1名</td> <td style="text-align: center;">2名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 成果</p> <p>アンケート結果からもわかるように、大変よく交流が深まったと言える。交流前と交流後では、支援学校生徒に抱いていたイメージが大きく変わったようだ。第1回の交流では、支援学校生徒との距離の取り方がわからず、少し困っている様子だったが、第2回の交流ではその垣根も取り払われ、自然に会話が交わされるようになっていた。日頃、競技スポーツに係る彼らにとって、スポーツの持つ力や素晴らしさを、違った角度から実感できたようであった。</p> <p>(3) 陸上競技部合同練習</p> <p>夏休みの交流も含め、数回実施している恒例の合同練習であるが、昨年度以上に、部員が主体的に支援学校生徒に方法を教えられるようになった。また、支援学校の中には、次年度全国大会をねらえる生徒もおり、競技レベルの高い交流になってきている。</p>		アスリートコース	陸上競技部	ア よく認め合えた	12名	10名	イ まあまあ認め合えた	1名	2名	ア よく育めた	12名	8名	イ まあまあ育めた	1名	4名	ア 主体的だった	8名	6名	イ まあまあ主体的だった	4名	4名	ウ あまり主体的ではなかった	1名	2名
	アスリートコース	陸上競技部																							
ア よく認め合えた	12名	10名																							
イ まあまあ認め合えた	1名	2名																							
ア よく育めた	12名	8名																							
イ まあまあ育めた	1名	4名																							
ア 主体的だった	8名	6名																							
イ まあまあ主体的だった	4名	4名																							
ウ あまり主体的ではなかった	1名	2名																							
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>1 事前学習において配慮事項を支援学校の先生から本校生徒へ直接伝えていただき、イメージをふくらませた。</p> <p>2 ボールやラケット、器具を使用する際の安全配慮、声掛けに気を付けた。</p> <p>3 取組時はねらいを明確にし、取組後に目的が果たせたかアンケートを実施した。</p>																								
<p>8 主な課題等</p>	<p>1 与謝の海支援学校とは比較的距離も近い。交流、合同練習ともに、年間実施回数を数回ずつ増やしたいところである。</p> <p>2 陸上競技部の取組は、メニュー作成から、実施、振り返りまで、今年度以上に部員に主体を移したい。</p>																								
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>1 今年度同様に与謝の海支援学校との交流を実施したい。</p> <p>2 年間実施回数を、数回増やしたい。</p>																								